

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第33週 （8月12日～8月18日）

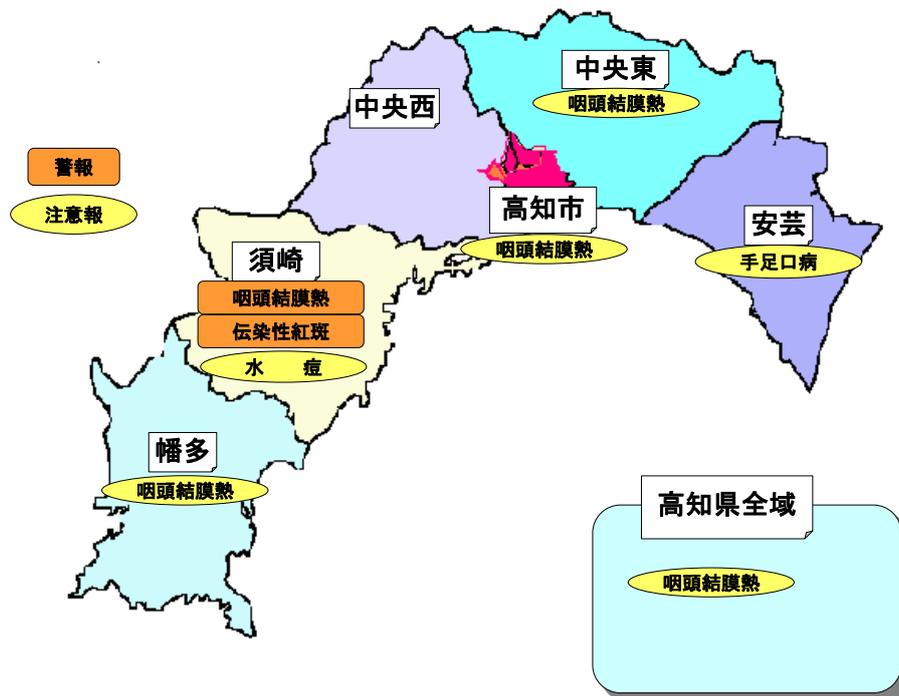
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↑：増加 →：横ばい ↓：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↓	1. 6 3	幡多、安芸、中央西で急減、県全域、高知市、中央東で減少しています。
RSウイルス感染症	↓	1. 2 3	中央東で急減、県全域、高知市で減少していますが、安芸、幡多で急増しています。
咽頭結膜熱	→	1. 1 3	幡多で減少していますが、高知市、中央東で増加し、須崎では警報値を、県全域、高知市、幡多、中央東では注意報値を超えています。
手足口病	→	1. 0 0	幡多で減少していますが、安芸で急増、中央西、高知市で増加し、安芸では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	0. 6 3	幡多で急減、県全域、高知市、須崎、中央東で減少しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

咳やくしゃみの飛沫による感染症はたくさんあります。電車や職場、学校など人が集まる場所では「咳エチケット」で感染対策しましょう。

咳エチケット

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出る時はできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。



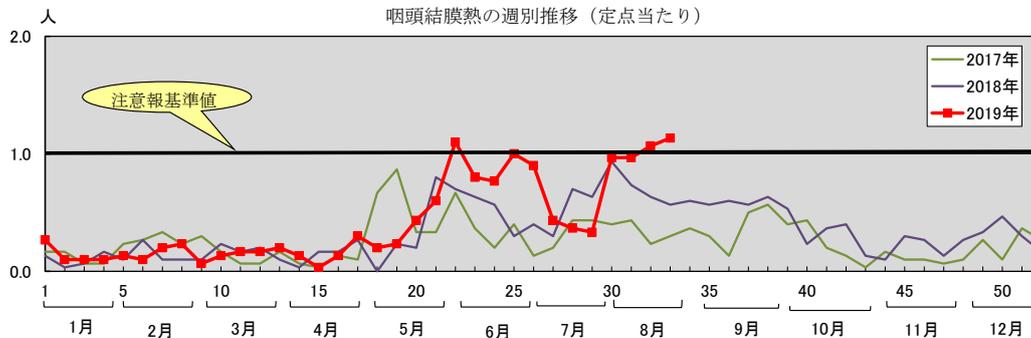
★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○咽頭結膜熱に気を付けて！

発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症です。

潜伏期は5～7日で、症状は発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が三主症状です。

小児、特に5歳以下に多く、例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。プールや温泉施設を利用する際は、前後にしっかりとシャワーを浴びるようにし、プールからあがったときは目を洗い、うがいしましょう。



<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のものを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。

●咽頭結膜熱について（厚生労働省）

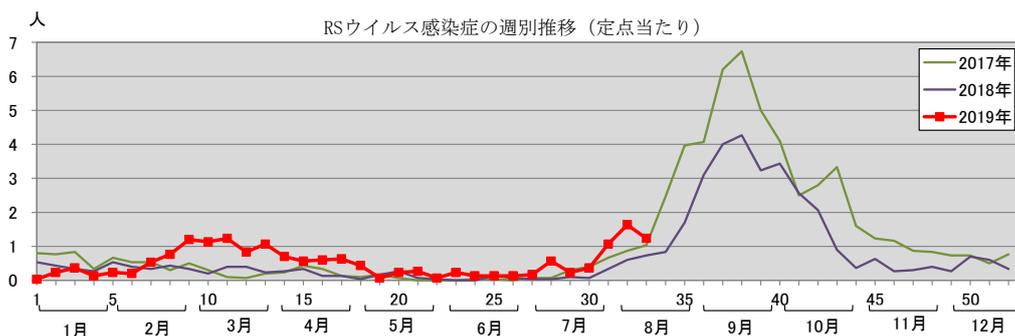
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou17/01.html>

●厚生労働省 「わかりやすい感染症 Q&A」（O157, 狂犬病, つつが虫病, 高病原性インフルエンザ, 咽頭結膜熱, 感染性胃腸炎, 手足口病, 伝染性紅斑, 突発性発疹, 風しん, ヘルパンギーナ, 麻しん, 流行性耳下腺炎, インフルエンザ）

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou16/01.html>

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

この病気は2日～1週間（通常4～5日）の潜伏期間の後に、軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。



<予防方法> 咳エチケットと手洗いが大切です

- ・現在、ワクチンはありません。
- ・咳エチケットと手洗いを心がけましょう。

患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。

●RS ウイルス感染症 Q&A（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所「ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット」
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
33	流行性耳下腺炎	38℃,	3	男	須崎	Mumps virus (ワクチン株)

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
32	不明発疹症（EB?）	39℃, 発疹,	4	女	須崎	Adenovirus 3
32	手足口病	発疹,	1	女	須崎	Herpes simplex virus 1
32	細気管支炎	39℃, 下気道炎,	1ヶ月	男	中央東	Coxsackievirus A6
						Parechovirus 3

＜国内の手足口病由来ウイルス検出状況＞

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間（2019年第26週～第31週）では、Coxsackievirus A6の検出割合が最も多く70%（94件）、次いでCoxsackievirus A16が10%（14件）、Rhinovirusが5%（7件）、Human herpes virus 6が2%（3件）Parechovirus 3が1%（1件）となっています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結核	1	76	30歳代 女	高知市
		1		80歳代 女	
5類	百日咳	1	113	5～9歳 女	中央東
		1		10～14歳 男	
		1		0～4歳 女	高知市

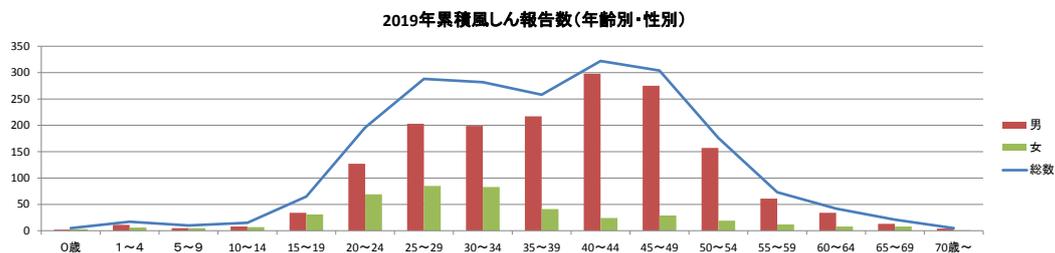
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	野市中央病院小児科	32週 病原性大腸菌 O-1 (ペロ毒素-) 1例 (11歳男)
高知市	高知医療センター小児科	hMPV 1例 (1歳男) RS ウイルス感染症 8例 (3ヶ月女、4ヶ月男 2人、11ヶ月男、1歳男 2人、2歳男女)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 7例 (0歳 2人、2歳 3人、5歳、7歳) カンピロバクター腸炎 2例 (8歳、11歳) サルモネラ O-7 腸炎 1例 (4歳) hMPV 気管支炎 1例 (1歳)
	三愛病院小児科	hMPV 2例 (10ヶ月女、1歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 4例 手足口病 6例 带状疱疹 1例 (10歳男) RS ウイルス感染症 1例 (1歳男)
	細木病院小児科	ロタウイルス 1例 (2歳男) サルモネラ 1例 (1歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	带状疱疹 1例 (7歳男) 手足口病 1例 (6ヶ月男：県外から帰省)
	日高クリニック	hMPV 気管支炎 1例 (1歳男)
須崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 2例 ノロウイルス胃腸炎 1例(3歳男) 32週 カンピロバクター腸炎 3例 (5歳、11歳、12歳)
幡多	こいけクリニック	アデノウイルス結膜炎 2例 (3歳男、5歳男)
	さたけ小児科	hMPV 3例 (1歳男 2人、1歳女) アデノウイルス 2例 (1歳男、4歳女) ヘルペス歯肉口内炎 1例 (3歳女)

★県外で注目すべき感染症

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019年第1週～32週の報告数は2,079人となっており(2018年の同時期全国で143人)、95%(1,967人)が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に(男性1,648人、女性431人)に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府以外に福岡県、愛知県、兵庫県、佐賀県、島根県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなどさらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】
症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ
感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染
潜 伏 期 間 : 2~3週間程度
感染性のある期間: 発疹のでる7日前から発疹出現後7日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

また、風しんの追加的対策として2019年4月1日から2022年3月31日まで以下の対象者は無料の風しん抗体検査及び定期の予防接種(第5期)を実施しています。

2019年度は、

・1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

・1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

受診可能な医療機関をご確認のうえ、各医療機関にお問い合わせください。厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

なお、受診時には本人確認（免許証、マイナンバーカードなど）ができる書類をご持参ください。

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け） <https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- 1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- 2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

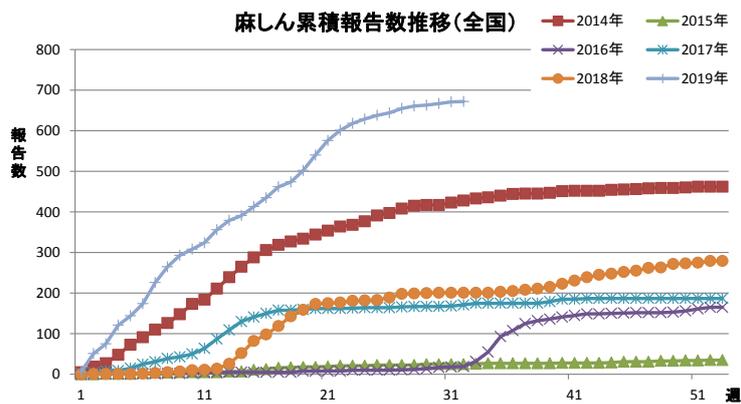
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第20号（高知県衛生環境研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻しんに気を付けて！

麻しんについては、平成27年3月27日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外で感染した患者を契機とした国内での感染の拡大事例が散見されています。2019年第1週～32週の全国の麻しんの報告数は672人と過去5年で比較して多い状態が継続しています（累積報告数：2014年462人、2015年35人、2016年165人、2017年187人、2018年279人）。今後、感染の拡大する可能性がありますので注意してください。



予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 平成31年3月4日付け30高健対発第1886号「麻疹発生報告数の増加に伴う注意喚起」より)

- ① 発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻疹の罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻疹を意識した診療をお願いいたします。
- ② 麻疹を疑う患者を診察した場合は、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所に連絡し、確定診断のための県衛生環境研究所でのウイルス検査を行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へご連絡をお願いします。また、麻疹患者と確定した場合は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号)第12条第1項の規定に基づき、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所へ速やかに届け出るとともに、麻疹の感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策をお願いいたします。

●医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 平成30年5月(国立感染症研究所疫学センター)

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/guideline/medical_201805.pdf

●麻疹について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

●麻疹(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

○海外ではデング熱に気を付けて！

デング熱は、熱帯や亜熱帯の全域で流行しており、東南アジア、南アジア、中南米で患者の報告が多く、その他、アフリカ、オーストラリア、南太平洋の島でも発生があります。

流行地域へご旅行される時には、蚊に刺されないように注意しましょう。

帰国後の注意点

帰国時に発熱などの心配な症状のある方や、渡航先において医療機関を受診するなど体調に不安のある場合は、空港や港の検疫所にご相談ください。

また、帰国後に症状がでた場合は、自分一人で判断せず速やかにお近くの医療機関を受診し、医師に渡航先や渡航期間、渡航先での行動などについて、詳しく伝えてください。

デング熱とは

症 状：発熱、頭痛、筋肉痛や発疹、まれに重症化し早期に適切な治療が行わなければ死に至ることも

感染経路：蚊を介してデングウイルスが感染。発症した人が蚊に刺されると、その蚊にウイルスが移りその蚊に刺された他の人に感染

潜伏期間：2日～14日

●デング熱について(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000131101.html>

●デング熱に関するQ&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever_qa.html

発行：高知県感染症情報センター(高知県衛生環境研究所)
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1(保健衛生総合庁舎2階)
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年8月19日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第33週 令和元年8月12日(月)～令和元年8月18日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(32週)	高知県(33週未累計)	全国(32週未累計)
												H30/12/31～R1/8/18	H30/12/31～R1/8/11
小児科	インフルエンザ								()	()	1,025 (0.22)	13,747 (286.40)	1,427,523 (289.50)
小児科	咽頭結核熱		8	14			6	6	34 (1.13)	32 (1.07)	1,392 (0.46)	416 (13.87)	43,807 (13.90)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	13			2	3	19 (0.63)	38 (1.27)	3,501 (1.16)	2,153 (71.77)	223,496 (70.91)
	感染性胃腸炎	1	9	24			2	13	49 (1.63)	84 (2.80)	8,953 (2.98)	4,159 (138.63)	556,083 (176.42)
	水痘			2			2	4	4 (0.13)	8 (0.27)	712 (0.24)	248 (8.27)	34,525 (10.95)
	手足口病	4	4	11	4		2	5	30 (1.00)	26 (0.87)	20,694 (6.88)	2,233 (74.43)	291,890 (92.60)
	伝染性紅斑		1	2			4	7	7 (0.23)	10 (0.33)	1,741 (0.58)	384 (12.80)	71,352 (22.64)
	突発性発疹		4	4			1	9	9 (0.30)	16 (0.53)	1,232 (0.41)	323 (10.77)	41,036 (13.02)
	ヘルパンギーナ	2	3	2				7	7 (0.23)	15 (0.50)	5,648 (1.88)	529 (17.63)	64,419 (20.44)
	流行性耳下腺炎								()	1 (0.03)	226 (0.08)	30 (1.00)	10,116 (3.21)
	RSウイルス感染症	2	6	27	1			1	37 (1.23)	49 (1.63)	5,034 (1.67)	523 (17.43)	49,810 (15.80)
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	6 (0.01)	1 (0.33)	238 (0.34)
	流行性角結膜炎								()	2 (0.67)	457 (0.71)	45 (15.00)	13,767 (19.87)
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	8 (0.02)	2 (0.25)	304 (0.64)
	無菌性髄膜炎			1				1	1 (0.13)	()	15 (0.03)	2 (0.25)	399 (0.83)
	マイコプラズマ肺炎								()	3 (0.38)	81 (0.17)	85 (10.63)	2,444 (5.11)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								()	()	2 ()	4 (0.50)	63 (0.13)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)			1				1	1 (0.13)	()	3 (0.01)	89 (11.13)	4,590 (9.60)
計 (小児科定点当たり人数)	9 (4.50)	36 (5.14)	101 (8.98)	5 (1.66)	19 (9.50)	28 (5.60)	198 (6.51)				50,730	24,973 (653.00)	2,835,862
前週 (小児科定点当たり人数)	10 (4.50)	53 (7.30)	128 (11.46)	11 (3.66)	16 (8.00)	66 (13.20)		284 (9.30)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

第33週

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(32週)	高知県(33週未累計)	全国(32週未累計)
												H30/12/31～R1/8/18	H30/12/31～R1/8/11
小児科	インフルエンザ										0.22	286.40	289.50
小児科	咽頭結核熱		1.14	1.27			3.00	1.20	1.13	1.07	0.46	13.87	13.90
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	1.18			1.00	0.60	0.63	1.27	1.16	71.77	70.91
	感染性胃腸炎	0.50	1.29	2.18			1.00	2.60	1.63	2.80	2.98	138.63	176.42
	水痘			0.18			1.00		0.13	0.27	0.24	8.27	10.95
	手足口病	2.00	0.57	1.00	1.33	1.00	1.00		1.00	0.87	6.88	74.43	92.60
	伝染性紅斑		0.14	0.18			2.00		0.23	0.33	0.58	12.80	22.64
	突発性発疹		0.57	0.36			0.50		0.30	0.53	0.41	10.77	13.02
	ヘルパンギーナ	1.00	0.43	0.18					0.23	0.50	1.88	17.63	20.44
	流行性耳下腺炎									0.03	0.08	1.00	3.21
	RSウイルス感染症	1.00	0.86	2.45	0.33			0.20	1.23	1.63	1.67	17.43	15.80
眼科	急性出血性結膜炎										0.01	0.33	0.34
	流行性角結膜炎									0.67	0.71	15.00	19.87
基幹	細菌性髄膜炎										0.02	0.25	0.64
	無菌性髄膜炎			0.20					0.13		0.03	0.25	0.83
	マイコプラズマ肺炎									0.38	0.17	10.63	5.11
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)											0.50	0.13
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)			0.20					0.13		0.01	11.13	9.60
計 (小児科定点当たり人数)	4.50	5.14	8.98	1.66	9.50	5.60		6.51			653.00		
前週 (小児科定点当たり人数)	4.50	7.30	11.46	3.66	8.00	13.20			9.30				

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第33週)

